

# 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター

## 2013 年度の活動

### 1. 共同セミナー

- 1) 第 4 回東洋大学 HIRC21 & 翰林大学応用心理研究所共同セミナー  
日時：2012 年 12 月 14 日（土）13:30～18:00  
場所：翰林大学応用心理研究所

### 2. 論文

相羽美幸・太刀川弘和・福岡欣治・遠藤剛・白鳥裕貴・土井永史・松井豊・朝田隆 (2013). 自殺念慮とソーシャル・サポートの互恵性—茨城県笠間市民を対象とした地域住民調査から— 自殺予防と危機介入, 33(1), 17-26.

相羽美幸・太刀川弘和・福岡欣治・遠藤剛・白鳥裕貴・松井豊・朝田隆 (2013). 新しいソーシャル・サポート・ネットワーク尺度 (BISSEN) の開発 精神医学, 55(9), 863-873.

福岡欣治 (2013). 女子大学生におけるソーシャル・サポートおよび食に対する知識と適切な食行動のセルフ・コントロール 川崎医療福祉学会誌, 23(1), 101-110.

Kato, T. (in press). Coping with workplace interpersonal stress among Japanese employees. *Stress and Health*, acceptance, February 4, 2014. DOI: 10.1002/smi.2566. PMID:

Kato, T. (in press). A reconsideration of sex differences in response to sexual and emotional infidelity. *Archives of Sexual Behavior*, acceptance, December 25, 2013. DOI: 10.1007/s10508-014-0276-4

Kato, T. (2014). Coping with interpersonal stress and psychological distress at work: Comparison of hospital nursing staff and salespeople. *Psychology Research and Behavior Management*, 7, 31-36. DOI: 10.2147/PRBM.S57030. PMID: 24470781.

Kato, T. (2013). Frequently used coping scales: A meta-analysis. *Stress and Health*, published online: December 12. DOI: 10.1002/smi.2557. PMID: 24338955.

Kato, T. (2013). Insomnia symptoms, depressive symptoms, and suicide ideation in Japanese white-collar employees. *International Journal of Behavioral Medicine*, published online: October 18. DOI: 10.1007/s12529-013-9364-4. PMID: 24136401.

Kato, T. (2013). Development of the Sleep Quality Questionnaire in Healthy Adults. *Journal of Health Psychology*, published online: May 29. DOI: 10.1177/1359105313482168. PMID: 23720542

久保ゆかり (2013). 社会的知覚から社会的認知へ—他者理解の発達— 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 10, 31-37.

松井豊・立脇洋介・兪善英 (2013). 消防職員の惨事ストレスケア—惨事ストレス研修と危機介入システム— 産業精神保健, 21, 18-30.

仲嶺真・大坊郁夫・松井豊 (2013). 初対面異性間における対人魅力と会話行動が親密化願望に及ぼす影響 筑

波大学心理学研究,46,49-56.

吉野美緒・重村朋子・市村美帆・稲本絵里・川尻泰樹・増野智彦・松井豊・横田裕行 (2013). 病院前救急診療活動に従事する看護師の精神的健康に関する研究 日本臨床救急医学会雑誌,16(5),649-655.

古村健太郎・松井豊 (2013). 親密な関係におけるコミットメントのモデルの概観 対人社会心理学研究,13,59-70.

古村健太郎・仲嶺真・松井豊 (2013). 投資モデル尺度の邦訳と信頼性・妥当性の検討 筑波大学心理学研究,46,39-48.

兪善英・松井豊 (2013). 親しい他社に対するストレス開示抑制態度が精神的健康に及ぼす影響 筑波大学心理学研究,46,57-58.

兪善英・松井豊・畑中美穂 (2013). 都市部の消防団員における家族に対するストレス開示抑制態度とソーシャルサポートが精神的健康へ及ぼす影響 対人社会心理学研究, 13,49-58.

水野剛也 (2013). 「若者に新聞を読ませるには? 女子大生から見た、新聞の『いいね』『ビミョー』」 日本新聞労働組合連合(新聞労連) 産業政策研究会編,『新聞労連産業政策研究会第2期最終報告書 新聞2013 この山をどう登るか』(産業政策研究会), 90-96.

水野剛也 (2013). 「ひといき① 『紙の新聞』は記憶に残る」,「ひといき② 若者に新聞を読ませるには」,「ひといき③ アメリカの若者のニュース源」 日本新聞労働組合連合(新聞労連) 産業政策研究会編,『新聞労連産業政策研究会第2期最終報告書 新聞2013 この山をどう登るか』(産業政策研究会), 18, 41, 68.

水野剛也・福田朋実 (2013). 「新聞4コマ漫画が描く鳩山由紀夫首相(中編) 首相在任期間中の3大紙の4コマ漫画に関する一分析 2009~2010」,『社会学部紀要』第50巻・第2号, 19-36.

水野剛也・福田朋実 (2013). 「新聞4コマ漫画が描く鳩山由紀夫首相(後編-1) 首相在任期間中の3大紙の4コマ漫画に関する一分析 2009~2010」,『社会学部紀要』第51巻・第1号, 5-12.

水野剛也・福田朋実 (2013). 「新聞4コマ漫画が描く鳩山由紀夫首相(後編-2) 首相在任期間中の3大紙の4コマ漫画に関する一分析 2009~2010」,『社会学部紀要』第51巻・第2号, 5~21.

Takeya Mizuno, "A Disturbing and Ominous Voice from a Different Shore: Japanese Radio Propaganda and its Impact on the US Government's Treatment of Japanese Americans during World War II," The Japanese Journal of American Studies No.24 (June 2013): 105-124.

Mizuno, T. (2013). "An Enemy's Talk of 'Justice': Japanese Radio Propaganda against Japanese American Mass Incarceration during World War II," Journalism History Vol.39, No.2, (Summer 2013): 94-103.

Suda, Y. (2014). Changing relationships between nonprofit and for-profit human service organizations under the long-term care system in Japan. To be published in: VOLUNTAS: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations

須田木綿子 (2014). 「高齢者と家族介護者の社会的健康」(老年社会科学 Vol.36 掲載予定)

須田木綿子 (2013). 「営利-非営利サービス供給組織の差異の縮小と社会福祉法人の存在意義」 ソーシャルワーク研究, 39(1), 54-63.

戸梶亜紀彦 (2014). 職務動機づけを高めた出来事に関する検討(2) -仕事への責任・組織での役割を自覚した体験について- 東洋大学社会学部紀要, 51-1号, 27-43.

### 3. 著書

- 平岡公一・武川正吾・山田昌弘・黒田浩一郎(監修) 須田木綿子・鎮目真人・西野理子・櫻田美雄(編) (2013). 研究道：学的探究の道案内 東信堂
- 堀毛一也 (2013). ポジティブ心理学の発展—パーソナリティ領域を中心に 日本パーソナリティ心理学会 (企画) パーソナリティ心理学ハンドブック 福村出版
- 堀毛一也 (2014). パーソナリティと状況 唐沢まゆみ (編) 新社会心理学 北大路書房
- 角山 剛 (2013). 藤永保(監修) 最新 心理学事典 平凡社
- 角山 剛・佐久間俊和・田中康之・黒澤俊平 (2013). 実践 モチベーション・マネジメント PHP 出版
- 小玉正博・松井豊 (編) (2014). 生涯発達の中のカウンセリングⅣ 看護現場で生きるカウンセリング サイエンス社 pp.205-223.
- 西田公昭 共編著 (2013). 大学生のリスク・マネジメント 吉川肇子・杉浦淳吉・西田公昭編 ナカニシヤ出版
- 西田公昭 (2013). マインド・コントロール 谷口泰富・藤田主一・桐生正幸編 クローズアップ犯罪 福村出版 pp.213-222.
- 松井豊 (2013). 災害救援者の惨事ストレス (財)日本防火・危機管理促進協会 (編) 東日本大震災に対する危機への対応 同協会発行, pp.70-106.
- 大島 尚 (2013). ボランティアと社会関係資本 山田利明・河本英夫・稲垣諭(編著) エコロジーをデザインする—エコ・フィロソフィの挑戦 春秋社 pp.170-185.
- 大島 尚 (2013). 社会関係資本の測定とその意義について 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター(編) 現代人のこころのゆくえ 3 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター pp.83-102.
- 須田木綿子 (2013). 海外英文誌への投稿というチャレンジ 平岡公一・武川正吾・山田昌弘・黒田浩一郎(監修) 須田木綿子・鎮目真人・西野理子・櫻田美雄(編) 研究道：学的探求の道案内 東信堂 pp.235-246.
- 須田木綿子 (2013). アクティブ・エイジングの実際 福祉社会学会編集 福祉社会ハンドブック：現代を読み解く 98 の論点 中央法規 pp.152-153.
- 須田木綿子 (2013). 何が高齢者虐待を生み出すのか？ 福祉社会学会編集 福祉社会ハンドブック：現代を読み解く 98 の論点 中央法規 pp.156-157.
- 須田木綿子 (2013). 恩師について 山手茂・米林喜男・須田木綿子編 園田保健社会学の形成と展開 東信堂：pp.156-163.
- 須田木綿子 (2014). 福祉 NPO の役割と課題 社会福祉事典 丸善出版 (2014 年 3 月刊行予定)
- 須田木綿子 (2014). 論文投稿支援 社会福祉事典 丸善出版 (2014 年 3 月刊行予定)

谷口尚子 (2013). 訪問面接調査とインターネット調査にみる投票行動・政治意識の差 現代人のこころのゆくえき 3 pp.103-134.

山本須美子 (2014). EU における中国系移民の教育エスノグラフィ 東信堂

山手茂・米林喜男・須田木綿子編 (2013). 園田保健社会学の形成と展開 東信堂

#### 4. シンポジウム

福岡欣治 2013 ジャーナリストにおける惨事ストレス対策—東日本大震災をふまえて— (シンポジウム D-1 災害や事件におけるメディアの役割：トラウマ学の視点から考える) 日本トラウマティック・ストレス学会第 12 回大会 (帝京平成大学) 2013 年 5 月 11~12 日

FUKUOKA, Yoshiharu. Great East Japan Earthquake and Critical Incident Stress of Journalists. Oral Presentation in the Symposium "Tri-National Symposium on 'Disaster and Psychology'" at the 2013 Annual Conference of the Korean Psychological Association, Daejeon, Korea, August 23, 2013.

堀毛一也 「モチベーションはポジティブな人生を築く」(指定討論) 日本社会心理学会第 57 回シンポジウム (東京未来大学) 2013 年 5 月 25 日

堀毛一也 持続可能な well-being をどうめざすか 日本応用心理学会シンポジウム 「Well-being の心理学—今、そしてこれからの well-being 研究の応用・実践」 (東京未来大学) 2013 年 12 月 7 日

堀毛一也 「コンサベーション心理学の可能性—自然を思いやる心を育てるには—」(コメンテーター) 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ (TIEPh) 特別セミナー (東洋大学) 2014 年 3 月 15 日

Horike, K. Towards the psychology for the sustainable well-being. 13th International Symposium on the Contributions of Psychology to Peace (IIUM, KUALARUMPUR, Malaysia, June, 2013)

松井 豊 災害救援者の惨事ストレスシンポジウム (東洋大学) 2014 年 1 月 12 日

西田公昭 日本脱カルト協会公開講座 「オウム事件・あれは何だったのか？」 (日比谷ホール) 2013 年 6 月 22 日

谷口尚子 シンポジウム「学士課程教育における政治学分野の参照基準」パネリスト 日本学術会議政治学委員会 (日本学術会議) 2014 年 2 月 10 日

戸梶亜紀彦 公開シンポジウム「モチベーションはポジティブな人生をひらく」 日本社会心理学会第 57 回大会 (東京未来大学) 2013 年 5 月 25 日

#### 5. 講演

安藤清志

1)2014 年 2 月 22 日 災害における「喪失」と社会 ~ill-being から well-being へ 東京未来大学モチベーション研究所第 3 回フォーラム

松井 豊

2013 年 7 月 東京消防庁「消防団員の惨事ストレス」講演

- 2013年7月 日本マーケティングリサーチ協会「平成25年度多変量解析の使い方講座」講師
- 2013年7月 消防職員安全衛生研修会「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演（東京三田）
- 2013年8月 東京消防庁体育分科会惨事ストレス研究部会中央大会「災害救援者の惨事ストレス対策～東日本大震災を踏まえて～」シンポジウム（東京四谷）
- 2013年8月 沖縄県消防長会・消防職員安全衛生研修会「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演（沖縄県浦添市）
- 2013年8月30日 小松市消防本部「消防職員の惨事ストレス対策研修会」講演（小松市）
- 2013年9月10日 十日町地域消防本部「消防職員の惨事ストレス研修会」講演（十日町市）
- 2013年9月18日 平成25年度被災者健康サポート事業専門職情報交換会「長期化する被災者の心情と復興に向けての関わり方について」講演 福島県看護協会
- 2013年11月12日 消防職員安全衛生研修会「消防職員のストレス対策」講演（会津若松市）
- 2013年11月19日 伊達市消防本部「消防職員の惨事ストレス対策」講演（伊達市）
- 2013年11月27日 小地谷消防本部「災害救援者とメンタルヘルス」講演（小千谷市）
- 2013年12月3日 消防職員安全衛生研修会「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演（名古屋市）
- 2013年12月10日 名古屋市総務局職員部安全衛生課「災害時における健康管理及び惨事ストレス対策について」講演（名古屋市）
- 2013年12月22日 東北大学復興アクションシンポジウム「東日本大震災における災害救援者の惨事ストレス」講演（仙台市）
- 2013年12月27日 魚沼市消防本部消防職員の惨事ストレス研修会「災害救援者とメンタルヘルス」講演（魚沼市）
- 2014年2月4日 平成25年度水と緑のいのちの地域ネットワーク会議第3回担当者部会公開研修会「惨事ストレスの理解と対応」講演（厚木市）
- 2014年2月6日 東京都医師会・地方公務員安全生成推進協会平成25年度産業医研修会「惨事ストレスの対応方法と産業医に役割について」（千代田区）
- 2014年2月18日 仙台大学学生相談室研修会「東日本大震災の被災者の心理について」（仙台大学・宮城県柴田郡柴田町）

水野剛也

- 1) 2013年10月5日 マイグレーション研究会、共同研究プロジェクト講演会「日系アメリカ人とノのマス・メディア、ジャーナリズム研究 『日本人』研究者が開拓すべき『大きなすき間』」（京都・私学会館）

西田公昭

- 1) 2013年10月12日 「カルトとマインド・コントロールーwell-beingを阻害するものー」モチベーション研究所フォーラム～Well-beingをめざし明日へのモチベーションを育むために～（東京未来大学未来ホール）
- 2) 2013年10月19日 「カルトとマインド・コントロール」（昭和女子大学）「キャンパスにおけるカルト勧誘とその対策～マインド・コントロールに脅かされる人権」（立教大学）
- 3) 2013年12月4日 「だまされない！大学生に忍び寄る破壊的カルトのマインド・コントロール」（三重県立看護大学）

西野理子

- 1) 公益社団法人岩手県青少年育成県民会議  
日時：2013年5月28日  
場所：岩手県盛岡市アイーナ（いわて県民情報交流センター）会議室  
テーマ：「現代社会における親と子：親にとって子どもとは何か」
- 2) 瀬戸市 子育て支援者研修会  
日時：2013年7月12日  
場所：瀬戸市パルティセと  
テーマ：「現代社会における親と子：親にとって子どもとは何か」

3) 東葛飾地区社会教育連絡協議会 平成 25 年度東葛飾地区社会教育振興大会

日時：2013 年 10 月 18 日

場所：我孫子市生涯学習センター ホール

テーマ：「開く家族、閉じる家族」

4) 日本トルコ女性交流会さくら一れ 「家族の絆」セミナー

日時：2013 年 12 月 13 日

場所：さくら一れ（日本トルコ女性交流会）

テーマ：「日本の中期親子間関係：親は子を助け、子は親を助けるべきか？」

## 6. 研究交流会（研究会）

西野理子

1) 日本家族社会学会全国家族調査委員会 NFRJ-08 パネル研究会第 8 回

日時：2013 年 8 月 23 日

場所：南山大学

2) 日本家族社会学会全国家族調査委員会 NFRJ-08 パネル研究会第 9 回

日時：2014 年 2 月 28 日

場所：東洋大学

谷口尚子

1) The 1st Asian Political Methodology Meeting in Tokyo

（第 1 回アジア政治学方法論会議）開催委員長

主催：Program Committee of the 1st Asian Political Methodology Meeting in Tokyo

共催：プリンストン大学政治学部、東京工業大学大学院社会理工学研究科、日本政治学会「政治学方法論研究会」

日程：2014 年 1 月 6 日（月）・7 日（火）

場所：東京工業大学

2) 同ポスター報告者、2014 年 1 月 6 日（月）

Naoko Taniguchi(2014), A Laboratory Experiment of Voter Turnout Paradox

山本須美子

科研費基盤研究(B)(海外学術調査)(課題番号 24402047) 研究課題「EU における移民第二世代の学校適応・不適応に関する教育人類学的研究」(研究代表者：山本須美子、平成 24 年度～27 年度) 関連の研究会開催(以下 3 回)

1) 日時：7 月 20 日（土）13 時～18 時、7 月 21 日（日）10 時～11 時半

場所：同志社大学烏丸キャンパスの志高館SK202 教室

発表者：園山大祐氏（大阪大学）

発表タイトル「外国人の適応から移民の成功に向けて」

植村清加氏（東京国際大学）

発表タイトル「移民第二世代の学校適応・不適応問題への文化人類学的アプローチの可能性」

布川あゆみ氏（大阪大学大学院）

発表タイトル「移民の子どもの低学力からみえるドイツにおける選抜と教育の不平等問題」

2) 日時：10 月 19 日（土）：13 時半～18 時

場所：東洋大学白山キャンパス

発表者：長坂格氏（広島大学・総合科学研究科・准教授）

発表タイトル「トランスナショナル家族における「離別」と「再結合」：イタリア在住フィリピン系第 1.5 世代の事例」

関恒樹氏（広島大学・国際協力研究科・准教授）

発表タイトル「越境する子供のアイデンティティと「家族」の表象ーアメリカ合衆国におけるフィリピン系 1・5 世代移民の事例から」

3) 日時：3 月 15 日（土）13 時半～18 時、16 日（日）10 時半～

場所：東洋大学白山キャンパス 「5201 教室」

発表者：佐久間孝正氏（東京女子大学・名誉教授）

発表タイトル「イギリスにおけるイスラム系の移民の教育と日常生活」

杉田かおり先生（筑波大学・特任研究員）

発表タイトル「イングランドにおけるシティズンシップ教育政策の展開ー移民政策との接点に着目」

## 7. 学会発表

相羽美幸（筑波大学）・太刀川弘和（筑波大学）・松井 豊（筑波大学）・福岡欣治（川崎医療福祉大学） ソーシャル・サポート・ネットワークと抑うつとの関連ー地域別・年代別・性別の検討ー 日本心理学会第 77 回（札幌：札幌市産業振興センター） 2013 年 9 月 19 日～21 日

相羽美幸（筑波大学）・太刀川弘和（筑波大学）・松井豊（筑波大学）・福岡欣治（川崎医療福祉大学）・朝田隆（筑波大学） 自殺とソーシャル・キャピタルとの関連 日本社会心理学会第 54 回大会（沖縄国際大学） 2013 年 11 月 2 日～3 日

福岡欣治（川崎医療福祉大学） 出産後の夫婦におけるサポート、愛情、抑うつの相互関係ー産後 1 ヶ月時点での夫婦ペア・データによる検討ー 岡山心理学会第 61 回（岡山大学） 2013 年 12 月 14 日

飛田操（福島大学）・水田恵三（尚絅学院大学）・安藤清志（東洋大学）・渡辺浪二（フェリス学院大学） ・佐藤史緒（東洋大学）・堀毛一也（東洋大学）・堀毛裕子（東北学院大学）・結城裕也（立教大学） 複合災害がもたらした「喪失」：浪江町民への面接調査から 日本社会心理学会第 54 回大会（沖縄国際大学） 2013 年 11 月 2 日～3 日

Horike, K. (Toyo University) A cross-generational study on the relationships among sustainable mind, behavior, and well-being. IPPA (ポジティブ心理学国際会議). Los Angeles, U.S.A, June, 2013.

堀毛一也（東洋大学） 東日本大震災が主観的 well-being に与えた影響について 日本グループ・ダイナミックス学会第 60 回大会（北星学園大学） 2013 年 7 月 14 日～15 日

Horike, K. (Toyo University) Some influences of the Higashi-Nihon earthquake on the inhabitants' well-being AASP (アジア社会心理学会). Yogyakarta, Indonesia, August, 2013.

堀毛一也（東洋大学） サスティナブルな心性・行動尺度の再検討 日本社会心理学会第 54 回大会（沖縄国際大学） 2013 年 11 月 2 日～3 日

Nishida, K. (Rissho University) Inducing violent attack by cult psychological manipulation: What is ABCD & H? International Cultic Studies Association. Trieste, Italy, July, 2013.

三村覚（大阪産業大学）・谷釜了正（日本体育大学）・川本利恵子（日本看護協会）・角山剛（東京未来大学） ・西條修光（日本体育大学）・藤田主一（日本体育大学） 公開シンポジウム「体罰を考える」 日本応用心理学会第 80 回記念大会 2013 年 9 月 15 日

水野剛也（東洋大学） 「日系アメリカ人とノーマス・メディア、ジャーナリズム研究 『日本人』研究者が開拓すべき『広大な未踏地』」 メディア史研究会（日本大学） 2014年1月25日

須田木綿子（東洋大学） 「福祉社会学の到達点と課題」 福祉社会学会第11回大会（立命館大学） 2013年6月29～30日

須田木綿子（東洋大学） 非営利—営利サービス供給組織の差異の縮小と「非」社会的企業組織の生成 社会政策学会第127回（秋期）大会 テーマ別分科会「介護と社会組織：台湾—日本の共同研究から」（大阪経済大学） 2013年10月13日～14日

Suda, Y. (Toyo University) Caring aging population and its trickling effects: Experience of Japan. Global aging: Rising challenges and a quest for opportunities. UNESCO Chair in Education & Technology for Social Change. University of Oberta de Catalunya, Barcelona, Spain, (招聘) November 5-6, 2013.

Suda, Y. (Toyo University) From increasing similarity to a new organizational form: Nonprofit and for-profit human service organizations. The Annual Conference of the Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action. Hartford, CT. USA. November 21-23, 2013.

Suda, Y. (Toyo University) The changing relationships among government, nonprofit and for-profit human service organizations: The long-term care insurance system in Japan. Voluntas conference: Changes in the mixed economy of welfare— Comparative perspectives. Copenhagen. Denmark. March 21-22, 2014.

谷口尚子・クリス・ウィンクラー 「国際比較・時系列比較可能な政策コーディング法とその応用」日本選挙学会大会（京都大学） 2013年5月19日（学会ポスター賞受賞）

谷口尚子 「投票参加に関する実証研究—若者の投票参加を中心として—」日本政治学会大会（北海学園大学） 2013年9月15日

谷口尚子 「投票参加に関する実験的研究」公共選択学会大会（駒澤大学） 2013年11月23日

戸梶亜紀彦（東洋大学） 感謝の対象に関する検討 日本感情心理学会第21回大会（東北大学） 2013年5月12日

戸梶亜紀彦（東洋大学） 感動体験を応用したワークモチベーションの効果的向上について（公開シンポジウム）日本社会心理学会第57回大会（東京未来大学） 2013年5月25日

戸梶亜紀彦（東洋大学） 社会心理学系大学教育の未来を探る（ワークショップ：話題提供者）日本グループ・ダイナミックス学会第60回大会（北星学園大学） 2013年7月14日

戸梶亜紀彦（東洋大学） 動機づけ向上のためのシナリオ作成（9）—職場内での評価・承認の効果に関する内容分析— 日本認知科学会第30回大会（玉川大学） 2013年9月13日

戸梶亜紀彦（東洋大学） 動機づけ向上のためのシナリオ作成（10）—評価・承認に関連する事項の検討— 日本心理学会第77回大会（北海道医療大学：札幌市産業振興センター） 2013年9月21日

戸梶亜紀彦（東洋大学） 動機づけ向上のためのシナリオ作成（11）—周囲からの扱い、サポート、自己の達成に関連する事項の検討— 日本社会心理学会第54回大会（沖縄国際大学） 2013年11月2日



## 8. その他

堀毛一也 2013 相互作用論 藤永保（監修）最新心理学事典 平凡社

水野剛也

### 1) 事典

宮地正人・佐藤能丸・櫻井良樹編、『明治時代史大辞典』（吉川弘文館、2012～2013年）、「東雲雑誌」（第2巻、161～162）、「日米」（第3巻、30）、「日布時事」（第3巻、50）、「布哇新報」（第3巻、195-196）、「羅府新報」（第3巻、823）。

### 2) 書評

水野剛也、「叱咤激励が随所に 報道に担い手に対する『愛』」、山田健太『言論の自由 拡大するメディアと縮むジャーナリズム』叢書・現代社会のフロンティア②⑩（ミネルヴァ書房、2012年）、『週刊読書人』2013年4月5日号：6。

須田木綿子(2013)「東日本大震災被災地での社会福祉の当面の取り組み：公的活動と民間活動の重要性」日本学術会議社会学委員会社会福祉学分会 『提言 災害に対する社会福祉の役割：東日本大震災への対応を含めて』：7-10.

須田木綿子(2014)「社会的包摂と NPO」日本学術会議社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 『提言 社会的包摂政策の課題』（2014年3月刊行予定）

Takashi Kakuyama. The Activities of Japanese Association of Industrial and Organizational Psychology. The 4th Joint Seminar Between HIRC21(Toyo University) & HIRPR(Hallym University). Hallym University, December 14, 2013.

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

### 〔研究員〕

安藤清志（東洋大学社会学部教授）〔統括責任者〕  
大島尚（東洋大学社会学部教授）  
堀毛一也（東洋大学社会学部教授）  
久保ゆかり（東洋大学社会学部教授）  
戸梶亜紀彦（東洋大学社会学部教授）  
黒澤香（東洋大学社会学部教授）  
西野理子（東洋大学社会学部教授）  
山本須美子（東洋大学社会学部教授）  
須田木綿子（東洋大学社会学部教授）  
加藤司（東洋大学社会学部准教授）  
水野剛也（東洋大学社会学部准教授）  
関谷直也（東洋大学社会学部准教授）

### 〔客員研究員〕

小澤康司（立正大学教授）  
西田公昭（立正大学教授）  
松井豊（筑波大学教授）  
大坊郁夫（東京未来大学教授）  
角山剛（東京未来大学教授）  
福岡欣治（川崎医療福祉大学准教授）  
谷口尚子（東京工業大学准教授）

〔研究支援者〕

増淵 裕子（東洋大学）

〔リサーチ・アシスタント〕

柳 瀬 公（東洋大学大学院社会学研究科）

鷹 阪 龍 太（東洋大学大学院社会学研究科）